

企画提案書

団体名：NPO 法人三保の松原・羽衣村

1 プロジェクト名

羽衣村の小さな美術展 名勝三保松原・清見瀉展

2 プロジェクトの概要 (市民ニーズや当制度を活用する意義を踏まえて記載してください。)

静岡市文化創造センター(みほしるべ)にて羽衣村の小さな美術展 名勝三保松原・清見瀉展を計画しています。私どもは三保松原の文化芸術の啓蒙に長年努めその一環として三保松原に関係した美術、絵画、工芸、文学歴史資料の収集活動をしてきました。天のはごろもコレクションと名付けております。昨年度はクラウドにて御穂神社参道の文学木札を修理修復し加えてコレクションも増やすことも出来ました。そのお披露目を兼ね三保松原・清見瀉から生まれた文学と絵画を紹介する美術展を企画しています。

本年3月からコレクションの内工芸品の一部をみほしるべに展示していただけるようになりました。名勝三保松原展を機会に掛軸などの絵画も披露し多くの方々に、三保の風光と共に三保松原から生まれた美も楽しんでいただきたいと思います。三保の新しい魅力づくりにも貢献できると考えます。

三保松原・興津清見瀉は古来からの東海道随一の景勝地です。なかでも三保の富士は、時代の変遷を経ても変ることなく愛され続け、日本を象徴するアイコンとなりました。日本人のアイデンティティーあるいは心象風景暗黙知のようなものです。それ故に三保の富士は詩歌とともに、多くの画家に描かれて有名美術館や篤志家によって作品は保存されておりますが、私達が見る機会に恵まれないことは残念なことです。構図には判で押したように富士と松と海原しか描かれなため独創のない陳腐な作品と粗末に扱われた時代もありました。しかし見方を変えれば高名な芸術家から風呂絵まで、聖から俗にいたるまで遍く人々に愛されたともいえましょう。三保の富士はどんな時代のどんな階層の人々にも、安寧や希望を与え、たくさんの魂を救済してきたように思います。他には何もない、美しくない、実景でありながらあたかも蓬萊に遊ぶような幻想を私達に抱かせてくれた三保松原。コレクションは無名画家のものが多く美術品的価値が高いわけでは決してありませんが、作者の三保に寄せる憧憬が時を超えて伝わってまいります。眠らせておくのは不憫ですし大事にして地域も含めたくさんの方々にお見せしたいと思います。

私どもは美術のプロではありません。三保松原の文化芸術の源泉たる所以を少しでも知っていただきたい一心で邁進してまいりました。展示する作品はありますが、センターは美術品展示施設ではないため、備品が揃っておりません。掛軸や絵画浮世絵の展示パネルなどどうしても新たな備品が必要となります。また、作品は古いものが多くご披露するには裏打ち、表具の修繕、額の用意も必要となります。今回はその費用のためにクラウドに応募いたしました。市民の手による手造りの美術展ですが、風光とともに文化芸術も楽しんでいただければ、三保松原再発見ができるのではないのでしょうか。どうぞご支援いただけますようお願い申し上げます。

3 取り組みたい社会的課題

三保松原ほど私達に精神的、芸術的感化を与えた風光は他にないのにもかかわらず、登録時には除外勧告という憂き目にも遭ったように、必ずしもその歴史ある文化、芸術の内容が人々に広く周知、啓蒙されているとは申せません。それは不幸なことに、この地の工業化があまりに古い時代から行われたため、住む人々も天から与えられたこの類まれな景観地を尊ぶことを忘れ、当たり前のものだと思って過ごしてきたからです。どこにもない宝であるとはだれからも教えられることもなかったのです。残念なことだと思います。

また、富士と松の景観は、あまりに形骸化して型にはまり個性に欠けた画題と思われました。時代にそぐわない、時代遅れなものと思う人も多いのです。しかしそれでも富士は超然としてここにあり、松の翠も松風も奇跡のように厳然とここに残り、浜辺を逍遙する人々がここから絶えることはないのです。

絵画の数々を眺めながら思うのは自然に対する日本人の愛情と敬虔な畏怖のようなものです。自然の中の美を見つめ、敬ってきた日本人の心の在りかたは、遠に忘れられたものかもしれません。しかし、心静かに作品を見ていると、燈明のようなものを心に感じ心の穏やかさを取り戻します。景観は、観光の資源という以上に精神の糧であると考えています。風光が私達の精神の一部だと感じた時、人から指示されなくとも三保松原を何とか残したいと自発的に考える方々も育ち、直接の行為でなくても大きな力となり、必ず景観を後世に繋ぐ担い手が生まれてくるはずです。私どもは、そのために具体的な的を絞り次のようなものを自らの課題としました。

- 1、羽衣村の小さな美術展の持続した企画
- 2、天のはごろもコレクションの収集と作品の保管と修繕
- 3、三保松原の文化芸術の青少年への啓蒙活動
- 4、三保の風光を守るための保全活動のPR
- 5、静岡市文化創造センター(三保しるべ)との協働
- 6、美術施設での、名勝三保松原・清見瀉展の依頼要請
(美術館にあるような名作はみほしるべでの展示は難しいため)

団体名：NPO 法人三保の松原・羽衣村

4 事業計画・実施スケジュール

現在より	天のはごろもコレクションの整理 名勝三保松原・清見瀉展の企画内容の計画 作品の修復 及び 展示パネルなど設営の計画 解説内容の作成 名勝三保松原・清見瀉展の日時候補選び みほしるべの企画展外の日
資金の目途立ち次第	名勝三保松原・清見瀉展の日時決定 作品の修復作業 名勝三保松原・清見瀉展のキャプションなどの製作 地域学校施設への宣伝活動
美術展修了後	名勝三保松原・清見瀉展の広報 名勝三保松原・清見瀉展の効果などの調査

5 法人としての活動概要

- 1 「三保松原美の世界」の刊行 三保松原の絵画などの芸術作品の集成と研究
- 2 三保松原の文化学の提唱と三保松原学文化講座の実施
- 3 環境保全を加味した文化教育講座「日曜学校」の実施
- 4 御穂神社参道内と松原内の文学木札の設置と三保松原の文学の研究
三保松原文学散歩、文学百撰の刊行
- 5 保全ツアーのお手伝い 三保松原の環境保全を生かしたエコツーリズムの創生
- 6 三保松原の資料収集である「天のはごろもコレクション」の収集
- 7 毎週水士の9時から12時の定期保全活動「それいけコクモ隊」
- 8 枯れ松葉などの自然廃棄物の有効利用の研究 「枯れ松葉は私達の宝物」
- 9 羽衣ルネッサンス構想の啓蒙

団体名：三保の松原・羽衣村

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、効果など）

1 専門性、独自性、先駆性について

私どもの美術展は文化芸術の継承のみならず三保松原の保全と景観の継承に繋げるものでありたいと考えています。深刻な松枯れに遭遇し当たり前にあると考えてきた松原が真っ赤に染まっていった時、また三保松原が富士山世界文化遺産の構成資産から除外勧告を受けた時、心痛めて下さる人々がいる一方、自然環境に何の反応もない人々、あまりにも自然に冷酷、無機質な感覚の人々が多いことに驚きました。あれば、あったでよいが、産業さえあれば、あるいは自然を模した人工の都市空間さえあれば、手のかかる自然環境は本気で守るほどのものではないという雰囲気が驚くべき勢いで蔓延してしまっていると感じ愕然としました。自然の風景は壁紙で十分であり、直接生きた自然を必要としない、むしろ疎ましいものと思う人々も多いことに気付きました。そういう時勢で決して楽ではない整備ボランティアに多くの方々が結集して下さったことは稀有なことであったと感謝しています。

自然環境が文化財あるいは世界文化遺産であれば行政は仕事としてこの保全を考えなくてはなりません。しかし行政の力には限りがあり特に基本的な整備には事業者を頼むだけでは追いつきません。どうしてもボランティアの手助けは不可欠です。ボランティアは人から強制されるものではなく自発的行動ですが、その原動力は何かと考えた時、テーゼや理念というより、その環境に親しんで魂を育ててきた人々、その景観に懐かしさや思い出を持つ人々に、強固に宿ることを実感してきました。愛情です。自然風物を加味した情操教育が必要と強く感じました。日本人は元来自然と文化、暮らしが密接につながりあい、結果自然を愛する民族性が育ちました。そのような自然との絆のない社会になった現在、今後の自然環境の保全や維持はどうしていけばよいのか大きな不安を抱えています。

そこで掲げたのが羽衣ルネッサンス構想でした。三保松原という自然資産は森羅万象を教えてくれる文化資産です。この維持継承の出来る社会を理想郷として掲げ、そのために人間の叡智、情操、行動を三位一体（智徳行）のサイクル（循環）として位置づけました。三保松原は結果的に優れた観光資産かもしれないませんが、私どもは人材育成の場、情操教育の場、日本文化教育の場と考えております。

また三保松原に関する自然科学を含むすべての学問を「三保の松原学」と呼んでいます。今回の美術展もこの一環として企画したものです。美術展のテーマを変え繰り返し行い地道に続けることにより、地域の子供たちも含め若い世代が三保松原に育ち愛情を抱いて下さることを期待しています。

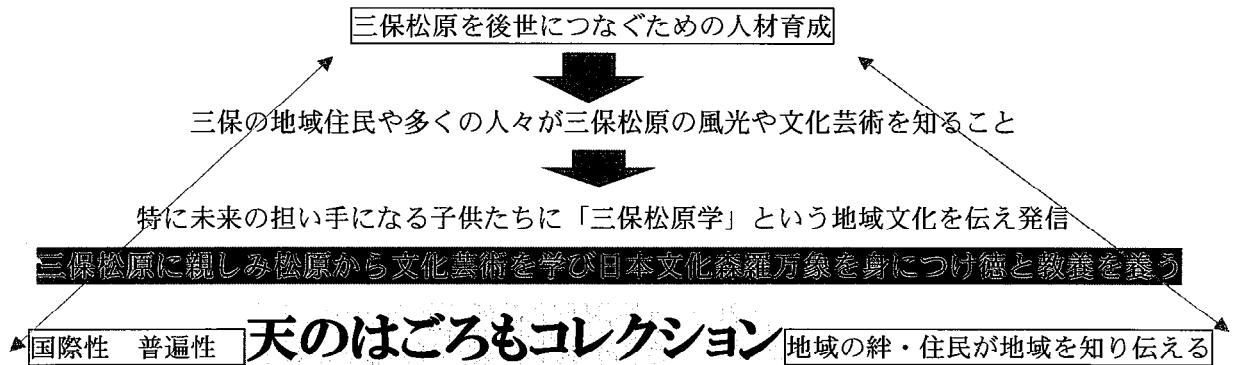
参考

羽衣ルネッサンス構想 松原と人の調和社会



今後松原を維持し後世につなげるためには、目指す方向性を示し、持続性、一貫性を継続し、後進の育成をする必要があります。文化性を高める教育プログラムも大切です。三保松原を守ることに結び付きます。

三保松原の文化と景観を後世に繋ぐ＝人材育成と日本と地域の情操豊かな繁栄



だれかが、行政が、ではなく私達が支える**松原の景観と環境保全** ➡ **日本と地域の繁栄**

2 実績、効果

令和元年9月で毎月水土と続けた10年近くに及ぶ整備活動は市に完全移管をいたしました。これまで三保松原の文化啓蒙と整備活動を両輪に活動を続けてきました。整備活動の支援は続けながら、本来の主軸であった文化芸術の部門の総決算を行いたいと考えております。私どもの一つの大きな成果は三保松原が富士山世界文化遺産の構成資産となったことです。整備活動は大きく評価されました。また、三保松原の文化芸術の啓蒙を行っていたことが、富士山が文化芸術の源泉であることを証明付け、三保松原が除外勧告を免れることに多少のお役に立てたと考えています。

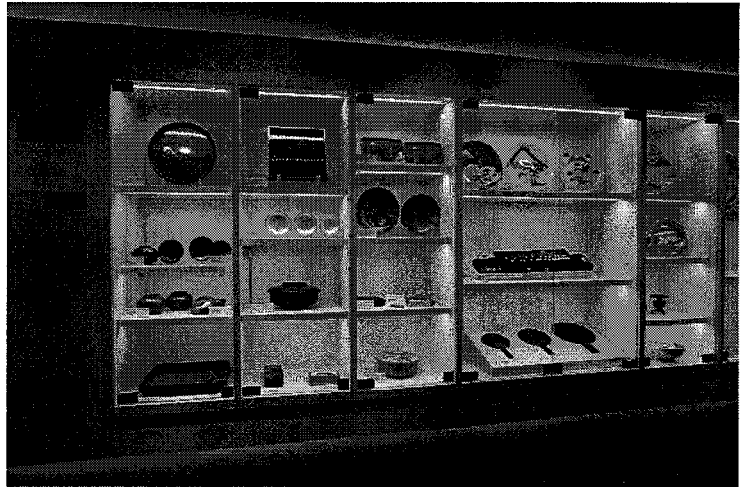
富士山世界文化遺産登録、静岡市文化創造センター（みほしるべ）の設立はかないましたが、ここが終点ではなく、実態があるべき姿に機能するように私どももお手伝いしなければなりません。

会うことのできない遠い子孫のために。美しい緑の松原を永遠に富士山の寄り添わせてあげたいと希望しています。私達も先祖にそうしてもらって今を引き継いで生きています。

7 目標金額

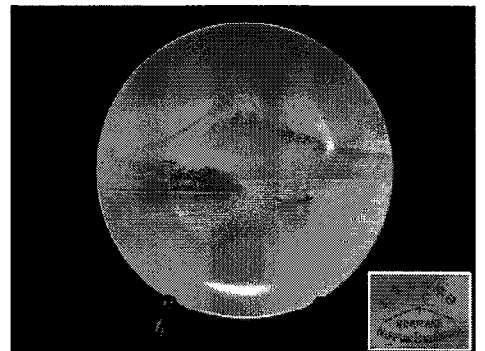
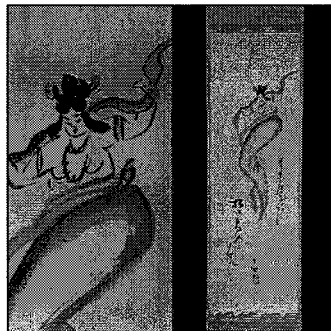
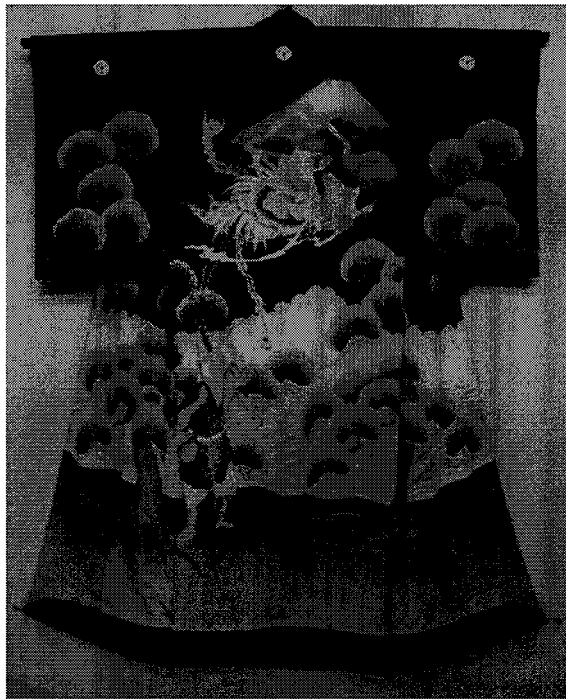
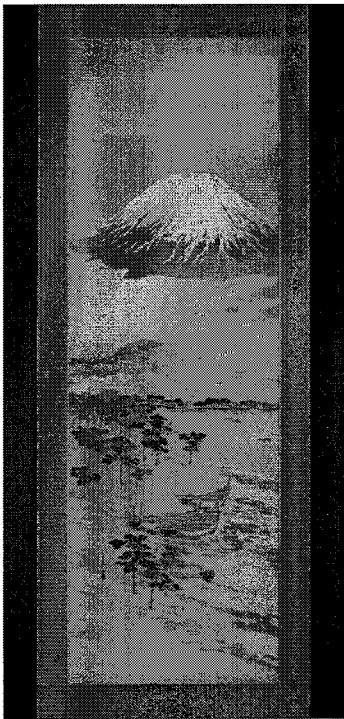
600,000 円

静岡市文化創造センター(みほしるべ)で開催する



羽衣村の小さな美術展

天のはごろもコレクションの一部



積算書

特定非営利活動法人三保の松原・羽衣村

収入			千円
	科目	内容・数量	金額
ふるさと寄附金			600千円
合計			600千円

支出			千円
	科目	内容・数量	金額
管理費	名勝三保松原・清見潟展 啓蒙	案内パンフレット制作費 写真撮影など	30千円
事業費	名勝三保松原・清見潟展		
	展示用パネルアクリル 板カバー	5×¥94,000	470千円
	展示品表具代	3×¥30,000	90千円
	解説キャプションパネル	¥10000	10千円
その他			千円
合計			600千円